

Epistula

【とびだせ新年度号】 epistula, ae. f. 手紙, 文書〔ラテン語〕
(研究社『羅和辞典』より)

大分県立芸術文化短期大学

2010
4・6
vol. 19

第48回卒業式・第30回専攻科修了式が無事行われました

3月23日(火)、あいにくの雨の中、これまで学生の成長を見守ってきた保護者のみなさん、そしてご来賓を迎え、第48回卒業式・第30回専攻科修了式を本学体育館で行い、443名の学生・専攻科生が学び舎を巣立ちました。

中山学長は「自分だけの得意技を持って力強く生きよ」と、これからそれぞれの道へと進む卒業生・修了生に激励の言葉を贈りました。卒業生を代表して答辞を述べた長野詩織さん(情報コミュニケーション学科)は「2年間で得たものを基礎にがんばりたい」と決意を新たにしていました。

卒業生の皆さん、本学をこれからも見守ってください。



「安藤宏子 豊後絞りの魅力」展を開催しました

3月2日～7日、「安藤宏子 豊後絞りの魅力」展を県立芸術会館で開催しました。

大分には、昭和恐慌の際に滅びてしまった「豊後絞り」がありました。安藤宏子さんは、その技法を復活させ、魅力的な作品を次々と制作しています。染め原料、絞りの技法見本裂(100種)、日本～世界の絞り実物、道具、浮世絵、安藤さん制作の着物・タペストリーなどなど、充実した展示内容でした。豊後絞りに関する説明から、郷土の歴史もうかがえます。会場の一角には絞り実演コーナーがあり、来場者から様々な質問が寄せられていました。期間中、2,500名もの県民に入場していただきました。



▲安藤宏子さん、広瀬大分県知事、中山本学学長(右から)

警察官採用募集用ポスターを美術科学生・専攻科生が制作

本学美術科学生・専攻生8名が、大分県警の委託を受け、「平成22年度版大分県警察官採用募集用ポスター」を制作しました。作品は全10作、4月から県内各地に掲示されます。3月23日には大分県警本部において表彰式が行われ、学生は、作品が社会に貢献する意義をかみしめていました。



▼作成されたポスターの画像は本学HPでもご覧いただけます。



サービslラーニング、アメリカ先進地視察を行いました

文科省・大学教育推進プログラム『体験をスキルに変えるナラティブ能力育成』の一環として、体験的学習の核をなすサービslラーニング(以下、S L)の内容充実を目的にアメリカ先進地視察(現地:2月22～24日)を実施しました。情報コミュニケーション学科の吉良伸一教授、高橋雅也講師、国際文化学科のグッドマーカ―准教授ら、5名がカリフォルニア州のノートルダム大学とドミニカン大学を訪問、S L担当教員やコーディネータ、学生たちと活発な議論を交わしました。学科教育の専門性とS Lを有機的に結び付ける仕組み、リフレクション(内省)の深さに照準した成績評価法は学ぶべきものがありました。



別府ビーコンプラザ記念事業

オペレッタ「こうもり」上演のお手伝いをしました

3月21日(日)、14時より、別府ビーコンプラザ開館15周年記念として、ヨハン・シュトラウス作曲のオペレッタ「こうもり」が上演されました。今回、ビーコンプラザとの提携記念の事業として、本学音楽科教員が市民合唱団の指導を担当しています。市民参加型のイベントの開催に寄与し、本学音楽科の地域貢献への取り組みをアピールする機会となりました。



このほか会場では、音楽科の学生による木管五重奏のロビーコンサートや第48回卒業修了作品展からの作品も展示しました。

授業料振替のお知らせ

前期授業料の振替は右記の日程で行いますので、前日までに指定口座にご入金をお願いします。

金額 195,000円

振替日 2年生: 4/27(火)・1年生: 5/27(木)

美術科・生活造形デザインコースにプロダクトデザイン分野が新設



プロダクトデザインの授業では、私たちの生活を支え彩る、家電、家具、ステーションナリー、玩具などの製品を生み出すプロダクトデザイナーに必要な感性と技術の基本能力を学びプロダクトデザイナーとしての資質を身につけます。具体的には、枠組みにとらわれない自由なアイディアの発想力、そのアイディアを視覚化するスケッチ力、コンピュータを活用した表現力、構造・機能・素材を活かした造形力、実物大の精巧なモデル制作技術、アイディアの魅力を的確に伝えるプレゼンテーション能力などです。

制作工房や3Dプリンタなど充実した設備を活用したものづくりを通して「デザインの楽しさ」を発見して欲しいと思います。



ニュージーランド語学研修、無事帰国



▲クライストチャーチの街かど

国際文化学科では、この春より、提携校であるニュージーランドのクライストチャーチ工科大学での海外語学実習を始めました。2月20日から3月21日までの日程で、国際文化・情報コミュニケーション合わせて計9名の学生が参加しました。以下は学生の実況レポートです。



クライストチャーチ工科大学では、いろんなことを学んでいます。午前中に、ほかの国の人々とともに英語で意見交換するほか、ニュージーランドやマオリの文化についても学びました。午後からは、主に校外に出て市内の様子を見て回りました。クライストチャーチは、歴史のある建物が多く、見る者を飽きさせません。市内中心部には観光客も無料で乗れるバスが走っており、とても便利な町です。また、所々に広い公園があり、多くの人がくつろいで穏やかな時間が流れていました。

(国際文化学科 柴田 賢幸)

学長コラム

中山 欽吾

<テーマ> 私たちにもできる地球温暖化対策



似顔絵／石丸 裕美

「地球温暖化」という言葉は、やはり言葉のように聞き慣れたものになりましたが、その詳しい中身を知っていますか？温暖化の原因は空気中の温室効果ガスの増加に起因するといわれています。なかでも炭酸ガスの排出量は桁違いに多いので、太陽熱を蓄積して気温の上昇につながる主犯とされています。炭酸ガスはものを燃やせば出てくるし、自動車社会は大量の炭酸ガスを含む排気を生みます。このように人間の生産活動や生活によって、大気中の炭酸ガスが蓄積され続けると、いつか両極の水が溶けて海面が上昇したり、生活環境の悪化が人間の生活限界を超える日が来るというのです。ですから、将来起こってくる悲劇を防ぐためには、環境の悪化を食い止める努力をもっと加速して、地球環境のバランスを保つ「持続可能な開発 Sustainable Development」を行うことが必要になります。そのためには、私たち一人ひとりができる範囲で努力することが全体としての成果につながると考えられます。

皆さんの身の回りでも、簡単に実行できる方法がたくさん

あるのですが、お気づきですか。えっ、「もうやっている」ですって？さすがは芸短生です。ところで、何をやっているのですか？参考のために簡単に整理してみましょう。持続可能な開発の目指す方向は「循環型社会」です。不要品は捨てられ、大部分が燃やされて炭酸ガスの排出につながります。できるだけ燃やさずに循環させようという考え方で、Reduce(リデュース：ゴミを減らす)、Reuse(リユース：繰り返し利用)、Recycle(リサイクル：資源の回収)の頭文字を取って、3Rといわれるようになりました。「Re-」とは「再度」という意味の接頭語ですが、最近ではRepair(リペア：修理)、Refine(リファイン：分別)、Reform(リフォーム：作り直す)などを加えることもあります。

ところで、私が自動車を使わずに、歩いたり自転車で走り回るのも温暖化対策ですか？もちろん、その通りですが、どちらかという健康対策ですかね、何れにせよ一石二鳥の対策です。みんなの努力を集めると、大きな力になることをお忘れなく。

学士号を17名取得



▲音楽科コンサートシリーズより

4年制大学卒業と同等の学士号が取得可能な2年制認定専攻科が始動して3年目の平成21年度は、2期目の修了生を送り出しました。演奏のビデオ撮り、あるいはレポート作成(理論コース)を入念に準備し、10月に申請。12月には、実技は東京で面接試験、初となる理論は福岡で筆記試験を受けました。2月下旬には、審査を申請した学生の元へ次々と合格通知が届き、17名が学士号を取得しました。

今年度の結果を受け、来年度も音楽科は教職員一丸となって、学生の教育に取り組んでいきます。

「芸文短大地域活動フォーラム」開催

1月29日、コンパルホールで「芸文短大地域活動フォーラム」を開催しました。今回のフォーラムでは、ナラティブ能力プログラムの担当教員である吉良伸一教授と高橋雅也講師より、今後3年間の取り組みについての説明と本学学生による活動発表を行いました。活動を通して知ったことや感じたこと、悩んだことや伝えたいことなどを思い思いに発表しました。総評として学外よりお招きした評価委員の方々から忌憚のないご意見をたくさんいただきましたので、今後の課題としてさらなる取り組みの充実と情報発信に努めていきます。



▲大人数を前にした発表は緊張、でも充実

<連載>

まち 芸術と文化の都市めぐり

第3回 マカオ(中国)

マカオは、1999年までポルトガルに統治されてきました。16世紀、多くのポルトガル商人が東アジアの海に航し、やがて1557年、ポルトガル人は、広州(広東)に通じる珠江に臨む小さな半島での居住を許されます。ここを足がかりにしてポルトガル人は東南アジアや日本との交易活動を活発に行いますが、とりわけマカオ・長崎間の交易は、中国の絹と日本の銀を取引し、ポルトガル人にとっての「ドル箱」ルートとして繁栄します。同時に、キリスト教布教の基地にもなり、宣教師たちはここから日本へ旅立ちました。鎖国によって多くの日本人キリシタンが移り住み、フロイス『日本史』の草稿が保管されていたのもこの街です。日本と中国、東南アジア、ポルトガルといった多文化交流の記憶を宿すマカオ歴史地区は、世界遺産に認定されています。

(国際文化学科 准教授 晴谷 憲洋)

「葡式(ポルトガル風)杏仁餅」という文字が目立つ店先



聖パウロ天主堂跡へと続く町並み



▲マカオの象徴「聖パウロ天主堂(大三巴牌坊)」現在はファサードのみ

第48回 卒業修了制作展を開催しました。

美術科の学生たちの個性輝く作品の数々が一同に並ぶ卒業修了制作展を2月16日から21日まで、大分県立芸術会館で開催しました。会場に入るとエントランスから展示されている彫刻群の充実した作品がまず目を引きました。そしてさまざまな表現による魅力的な絵画の作品へと続きます。抽象表現や人物・風景など作者が感じたモチーフへの想いが観る人に伝わってきました。デザイン専攻では、ビジュアルデザインの楽しいポップアップ絵本やユニークなエコバッグの完成度に驚かされ、アニメーションの動きのある美しさとストーリーに多くの人が足を止めていました。工芸デザインでは、空間に映える巨大な魚の染色作品や時代を反映した屏風、お洒落で味わいのあるセラミックのチェスの駒たちなど、素材の魅力を引き出しながら作者の感性と時代感覚を表現した作品群が訪れた観客を魅了していました。



私はもともと、立体を作ることが苦手でした。短大に入って陶芸を始めてから、慣れてはきたけれど、自分の思った形にできなくて苦労しました。卒業制作のチェス駒「群」も、何度も失敗し作り直しました。それでも、出来上がったときのことを考えると、楽しくてどんどん制作が進んでいきました。完成した自分の作品を手にとったとき、本当に涙が出るほど嬉しかったです。



佐土嶋友香「群」

機会があれば、今度は私にしか作れないようなチェス駒を作りたいです。

(美術科デザイン専攻 佐土嶋友香)

OITA PREFECTURAL COLLEGE OF ARTS & CULTURE

音楽科・第48回卒業演奏会、専攻科の第26回修了演奏会を開催しました。 [3月18日・19日]



3月18日・19日、iichiko音の泉ホールで音楽科の第48回卒業演奏会、専攻科の第26回修了演奏会を行いました。

これらの演奏会は、最後の実技試験で優秀な成績を収めて選抜された学生によるものです。彼らの演奏は、

鳥が大空に羽ばたいていくように、自由に素晴らしい音楽で満たされたものでした。本学で学び成長して自由に巣立っていく姿を目のあたりにした瞬間のようで、一抹の淋しさはこれからの彼らの未来を思う喜びに変わりました。我々教員は彼らの成功を祈るものです。



今回の修了演奏は、芸短生活4年間の集大成でした。

これまで歌ってきたホールは普段より一段と素敵な舞台に思えました。舞台裏ではやはり不安はありましたが、舞台上でスポットライトを浴びた瞬間にそれまで感じていた重圧は感慨に負けてしまいました。歌っている時間は本当に充実していました。本当によく歌えたかは分かりません。しかし、私なりに音楽に対する想いを伝えられ、4年間の締め括りに相応しい演奏が出来たと思いました。

(専攻科 吉永 研二)

OITA PREFECTURAL COLLEGE OF ARTS & CULTURE

卒業研究発表会 [2月12日、15～16日]

「世界をつなぎ 未来をつむぐ」国際文化学科では、世界の多様な地域や文化を研究しています。2年次になると、学生は自らの興味・関心に従って、それぞれ研究室に所属し、卒業論文を作成し、研究発表を行います。2月12日、15～16日の3日間、いくつかの会場に分かれ、108名の学生が、102本の研究発表を行いました。日本の伝統文化から、ヨーロッパの現代文化、オセアニアにおける非核問題まで、世界の文化と社会の多様性、現代の課題を再認識する3日間となりました。



私は卒業研究のテーマに「京焼」を選びました。江戸時代の京焼の一種である〈御室焼〉の武家社会における社会的・文化的機能に着目して研究を行いました。特に注目した人物は、「京焼」の大成者として有名な野々村仁清と、彼の有力なパトロンであった丸亀藩京極家の高和と高豊です。京極家の2人の当主が仁清陶にどのような役割を求めていたのか、作品分析と文献から考察しました。

卒論発表会では、一人の持ち時間が10分でしたので、短い時間で分かりやすく発表することを目指しました。そのため、発表原稿を作成し、パワーポイントを用い視覚的に理解しやすいよう構成も工夫しました。短い時間での発表で、相手に理解してもらうことは難しい事だと感じましたが、自分が今まで積み重ねてきた研究や知識を発表するには良い機会だと感じました。

(国際文化学科 甲斐末希子)



OITA PREFECTURAL COLLEGE OF ARTS & CULTURE

卒業研究発表会 [2月8日～10日]



M(メディア) I(情報科学) P(心理学) S(社会学)の4領域にわたり、13の研究室に分かれた2年生138名が、全学科生・教員を前に、1年間携わってきた成果を自分たちの言葉で発表しました。全67件の研究は、パワーポイントや動画、ネット情報を組み合わせ、それぞれ解りやすさに重点を置き、聴衆の興味を引くように努力しました。

聞き役の1年生は、午前・午後をそれぞれ1セッションとして、全6回のセッション、それぞれの中から一番興味深かった発表を選び、講評を提出、次年度に自分たちが発表する参考にします。

2年間の集大成として、今年の研究発表会はとても充実していたと感じました。

私の研究室では他の研究室とは一味違った発表方法で、芸短の情コミュらしい発表が出来て、やっている私自身もとても楽しんで行えました。

聞いてくれていた1年生からも「とても分かりやすく、楽しく発表を聞くことができました。」と言ってくれたので、来年の発表会にも活かして欲しいです。

この発表会を含め、芸短での2年間で忘れずに4月からの新しい生活を頑張っていきたいです。

(情報コミュニケーション学科 吉野 靖子)



OITA PREFECTURAL COLLEGE OF ARTS & CULTURE

美術科 中川 恵雄 教授

(平成8年より勤務)



只今、講義中。

「グローバルな教育を！」

私が本学に平成8年4月に赴任してまいりまして、今年で14年になります。赴任した当初は、本学のヴィジュアルデザインは、九州の大分のデザイン科に過ぎなかったと思います。現在、福岡のデザイン界では、本学の名前はとどろいております。大分だけにとどまらず、九州全県、四国、中国地方でも、有名になっております。今年的一般入試の県外生の多さが、それを物語っています。

私は、福岡や大阪、東京でも通用するグローバルな教育を心がけ、出来る限り学生を鍛え、どこにも恥ずかしくないデザインの学生に仕上げてきたと自負しております。卒業生の一人はドイツに留学もしております。

皆様、長い間お世話になり、ありがとうございました。

退職者よりひとこと



教務学生グループ 清正 節子さん

(昭和44年より勤務)

「お世話になりました」

振り返ってみると、先輩から初代学長の側での仕事を紹介されたのが芸短大で働くことになったきっかけでした。まさかこんなに長く続けることになるとは夢にも思いませんでした…。その時から今日まで実に様々でユニークな方々との出会いがありました。ワクワク、ドキドキと胸をときめかせた贅沢な時間は、私の中に芸短大で得た大切な財産として収まっています。

今後も、大きく変貌著しい母校がどの様に育っていくか楽しみにしています。本当に長い間親しくしていただいて有り難うございました。無事に芸短大での仕事を卒業できることを皆様に感謝します。



シルクロードの旅先で

学内ギャラリー★スケジュール

EXHIBITION SCHEDULE

現役学生を中心に日々の成果を意欲的に発表する本学芸術棟の「学内ギャラリー」。平成22年度前期の展示日程は以下の通りです。若い感性に触れてみませんか？

平成22年度

学内ギャラリー前期スケジュール

1. **グループ展「GIFT」**(専攻科造形専攻1年、副手)
4月5日(月)～4月23日(金)
2. **岩田悠花・吉栖千穂展**(美術専攻2年)
4月26日(月)～5月7日(金)
3. **宮原里実展**(専攻科造形専攻2年)
5月10日(月)～5月21日(金)
4. **管優美・新野来夢展**(専攻科造形専攻2年)
5月24日(月)～6月4日(金)
5. **堀込菜津季展**(専攻科造形専攻2年)
6月7日(月)～6月18日(金)
6. **彫刻演習課題制作展**
6月21日(月)～7月2日(金)
7. **前田亮二展**(非常勤講師)
7月5日(月)～7月16日(金)
8. **卒業・修了制作買い上げ展**
7月17日(土)～7月23日(金)
9. **鹿児島県人展**(生活造形2年)
7月26日(月)～8月6日(金)

※芸術棟ギャラリーは平日の午前9時から午後6時まで公開しています。
なお、学外からおいでの際は、大学事務局または人文棟・警備員室にお声掛けください。

GEITAN INFORMATION 2010.4 ▶ 6

ゲイタン★インフォメーション

◆ キャンパスが全面禁煙になります

芸術文化短期大学では、4月1日より、キャンパス内を全面禁煙します。公的空間における禁煙という世界的な動きを受け、未成年者喫煙予防・喫煙習慣の根絶という教育的配慮、そして教職員の健康増進といった目的から、中山学長による「学長宣言」の下、キャンパス内の全面禁煙を実施するものです。本学の取り組みにご理解とご協力をお願いいたします。



◆ 江漢大学・張佳梅先生が本学で研修します



4月から、張佳梅先生が本学で研修を行います。張先生は、本学と協定を結んでいる中国・江漢大学で日本語を担当しており、日本の文化や日本語についての理解をさらに深めるために本学で研修活動を行うことになりました。これを機会に中国との友好関係がますます深まることを期待します。

GEITAN CALENDAR

ゲイタン★カレンダー

4月 April／卯月

- 5日[月] 入学式
- 6日[火] 新入生オリエンテーション(～8日)
- 9日[金] 前期授業開始・履修登録
- 16日[金] 履修登録変更(～22日)
- 27日[火] 前期授業料納入期限(2年生)
- 29日[木] 昭和の日

5月 May／皐月

- 3日[月] 憲法記念日
- 4日[火] みどりの日
- 5日[水] こどもの日
- 7日[金] 月曜振替日
- 27日[木] 前期授業料納入期限(1年生)

6月 June／水無月

- 2日[水] 音楽科コンサートシリーズ
- 19日[土] 2010府内学生ECOフェスタ
- 21日[月] 夏至
- 23日[水] 音楽科コンサートシリーズ



次号のお知らせ



Epistula 20「夏へのとびら」号は、2010年7月1日発行予定です